


ワンタイムだより No.2

2016年11月22日発行

発行人
 特定非営利活動法人
 ワンタイム
 理事長 茨澤一郎

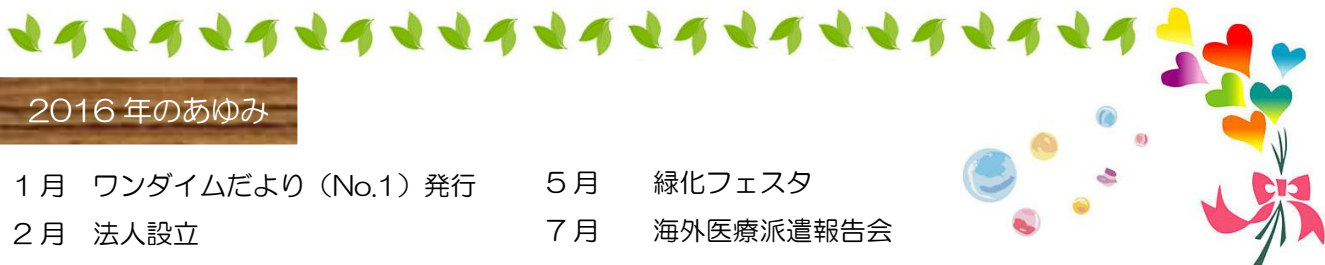
TEL : 026-247-2033

2016年2月8日に「NPO法人ワンタイム」を設立しこの1年間様々な活動をしてきました

小布施の地で 80 余年の歴史を刻む特定医療法人新生病院の前身、「新生療養所」は昭和初期に蔓延した結核の療養所として 1932 年（昭和 7 年）開設しました。日本の窮状を救おうとカナダ聖公会により、遠いカナダの地で日本のための療養所建設の募金が始められ、カナダの人々の善意により療養所は誕生しました。

募金活動の際、日曜学校の幼い生徒が「1（ワン）タイム」（10 セント）銀貨をきれいに磨いて教会へ持ち寄ったエピソードがあります。この少年が大切なお小遣いの中から「1 タイム」を私たちへ捧げてくれた思いが実を結び療養所建設へ、そして現在の新生病院の精神として受け継がれています。

この少年のエピソードをきっかけに、私たちに手を差し伸べてくれたカナダの先人や、先人の思いを受け継ぎ支えてくれた方々が育んだ資産を、未来への社会貢献事業という形で幅広く行うため「NPO 法人ワンタイム」を設立しました。地域社会、国際社会が必要とする事業を誠実に活動すると共に、私たちが今できること、求められていることにひたむきに取り組み、やがて大きな奇跡が生まれることを願って私たちは前進していきます。



2016年のあゆみ

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1月 ワンタイムだより (No.1) 発行 | 5月 緑化フェスタ |
| 2月 法人設立 | 7月 海外医療派遣報告会 |
| 3月 海外医療協力に関する講演会開催 | 11月 緑化フェスタ |
| 4月 バングラデシュ海外医療派遣 | 11月 ワンタイムだより (No.2) 発行 |



目次

- ワンタイム設立報告、2016年のあゆみ …… P1
- 海外医療協力（バングラデシュ）派遣報告（概要、活動の目的、診察と手術のデータ、最後に） P2、P3
- ご支援のお願い、今後の事業展開、認定 NPO 法人取得に向けて、編集後記 …… P4



概要

- ・ 派遣期間：2016年4月28日(木)～5月7日(土)
- ・ 派遣地：ジョイラムクラ・クリスチャン病院
(ジョイラムクラは、バングラデシュ北部、国境に近いガロ族の村。ダッカ国際空港から、車で約4～5時間です)
- ・ 参加者：酒井典子医師（整形外科、新生病院）、
榊原政裕医師（整形外科、北海道浦幌町立診療所長元・新生病院副院長）、寺島左和子医師（形成外科、新生病院）、酒井洋徳医師（歯科口腔外科、長野市民病院）、湯田勝彦（プログラムコーディネーター）



今回参加した先生方

今回の活動：3つの目的

① 医療協力活動をする事

- (1)主に現地医師には難しい手術などを行うことです。
- (2)医療技術の提供をすることです。

宮崎先生は医療協力活動で治療した患者さんの医療費の半額を支援として支払っていました。ワンタイムも新生国際医療協力基金からこの活動を受け継ぎ、新たな募金の呼びかけ（ファンド・レイジング）をすることにより、医療費の半額支援を再開することが今の目標です。

② 今後の活動のための打ち合わせ、調査をすること

- (1)ジョイラムクラ病院常務理事との打ち合わせを行いました。（今年から交代されたので、MOU（現地医療協力活動における双方の役割分担）の再確認と、医療費支援の再開の意思があることをお伝えしました）
- (2)ジョイラムクラプロジェクトの事業展開調査を行いました。（敷地内の池や畑を活用した地域開発事業、附属看護学校や助産師学校の展開など、今後の活動のために）

③ 国際情勢に注意し安全に活動を終え帰国すること

2015年10月、バングラデシュ西北部で働く日本人がテロにより殺される事件があり、大きなショックを受けました。それからかなり落ち着きを取り戻し、バングラ国内では他NPOの日本人スタッフも活動を再開。私達ワンタイムの医療協力チームは、レマ院長のアドバイスもあり、滞在中24時間警護をつけてもらい、今回の活動に行きました。



現地警察の24時間警護態勢

診察と手術のデータ

- ・診察した総患者数：188人
- ・手術（抜歯も含む）：57人（全身麻酔15人、腰椎麻酔3人、局所麻酔38人、伝達麻酔1名）



診察の風景



手術室の様子



ベッドが足りないときの病棟

最後に

『わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です』
（新約聖書・コリント人への手紙1 第3章6節）

どうして危険なバングラデシュを支援するの？

宮崎亮医師、安子医師ご夫妻の小さな活動から始まったこの医療協力。 新生病院にご夫妻が与えられなかったら、バングラデシュにご縁もなく、訪れることもなかったであろうと思うと、この御導きに感謝です。

私達の帰国後、2016年7月1日に、ダッカでのテロ行為により、日本人を含む多くの方が殺害された事件は、記憶に新しいことと思います。一部の人の心ない行為が、平和なバングラデシュをとてつても危険な国にしてしまいました。バングラデシュに暮らす現地の人達こそ、自分達の国でこんな悲惨な事件が起こったことを悲しんでいます。

危険だからバングラデシュとのかかわりをやめるのではなく、そんな時だからこそ、この与えられたご縁を大切に、私達が今「何ができるか」を考え、実行に移すことが大事なのではないかと、改めて思っています。

結核で苦しんでいる日本人のために、小布施に結核療養所の建設を決めたカナダミッションの宣教師達。 その募金の呼びかけにこたえて、ワンタイム硬貨をぴかぴかに磨いて差し出した小さな子ども。 その小さなひとつひとつが今の私達の新生病院、そしてワンタイムにつながっています。そのことを改めて思い返すと、今度はそんな私達が、苦しみ、悲しみ、困難の中にあるバングラデシュの人達に、寄り添う番ではないかと思っています。



子どもの患者さんに話しかける
宮崎亮先生、安子先生ご夫妻

ワンダムの継続的な活動へ 皆様のお心をお寄せください

NPO 法人ワンダムでは、皆様に活動へのご支援・ご協力をお願いしております。皆様から頂いた「ワンダム」へのエールは、諸活動のため大切に使用させていただきます。わたし達の活動にご理解頂き、力強いご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

2016年は、10月31日現在で3,210,844円のご支援をいただきました。本当にありがとうございます。

お振込口座

- ①ゆうちょ銀行 小布施郵便局 振替口座 00560-0-102562 特定非営利活動法人ワンダム
- ②八十二銀行 小布施支店 (普) 227507 特定非営利活動法人ワンダム

今後の事業展開



海外医療協力・被災地支援事業

- ・海外医療協力派遣
- ・海外からの医師受入研修
- ・被災地への医師派遣 など



歴史・理念伝承事業

- ・ミスパウル記念館の移築
- ・歴史資料の収集・整理 など



環境・交流事業

- ・メイプルの森構想に向けた、メイプルの苗の購入
- ・緑化フェスタの開催 など

認定NPO法人取得に向けて

年間3,000円のご寄付をいただけませんか？ NPO 法人ワンダムは、「認定NPO 法人」の取得を目指しています。「認定NPO 法人」を取得すると次のようなメリットがあります。

(1) 個人の寄付者様の寄付控除が最大 50%になります。(2) 法人様によるご寄付の場合、経費として損金に算入できる額が増えます。(3) 相続財産をご寄付いただいた場合、その分の相続税が非課税になります。(4) NPO 法人ワンダム自身も減税措置を利用することが出来ます。

「認定NPO 法人」を取得するためには、2年間で、年間 3,000 円以上のご支援をくださる個人寄付者様が平均 100 名以上必要です。是非、NPO 法人ワンダムのさらなる発展を支える 100 人のひとりとして、ご支援くださいますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

編集後記

皆様の多大なるご支援により、NPO 法人ワンダムの設立とともに、未来への一步を踏み出すことができました。本当にありがとうございます。信念を持って歩みを止めずに進んで参りますので、これからもご支援のほど宜しくお願いいたします。

【お問合せ】

特定非営利活動法人ワンダム
〒381-0201
長野県上高井郡小布施町小布施 851-7-2
TEL : 026-247-2033
※新生病院代表電話に繋がります。オペレーターに「ワンダムについて」とお伝え下さい。
FAX : 026-247-4727
事務局：金、富山